

星

ここで

わたしが合図を送ると

あの空の彼方から

光を返す星がいる

見えるわけではないけれど

この胸の奥で

ふかぶかと鳴る旋律によって

そのことを知る

応答のなかで

わたしたちが奏でるのは

天球の調べ

それは

いつからか

すっかりそらんじている譜

終結のない楽曲

いつもは忘れている旋律

そこで打っているのに

いつもは忘れている律動

星との応答の中で

俄かに思い出す

わたしは楽器だった

よく鳴る楽器だった

肉と骨をことづかったのは

この世でよく歌うためだった

松本礼子